

展覧会場での写真撮影

展覧会場では『撮影禁止!!』の張り紙を目にすることがあります。

この事についてチョット考えてみたく、ネットで何か参考になることはないかと。

以下ネットの要約コピーを拝借しましたのでご意見など・・・

■ 写真撮影許可について

携帯電話・スマホでいつでも何でも撮影できる昨今、ことあるごとに写真を撮ることに我々は慣れきっています。

でも、さすがに美術館とか博物館はダメでしょ、と思いませんか。

ところが、その当然ダメだと思っていた場所が、今や撮影OKになりつつあるのです。

関係者に聞いたところ、その理由は。

まず、「展覧会のPRは、客が写真を拡散するのが一番効果的」。

フェイスブックやブログなどで写真を見てもらうことで、

“確かに良さそう” “あの人気が行ったなら” と、次なる客を呼び込むことが出来るわけです。

■ ふたつの美術展で写真撮影許可について考えた

「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち展」と

「村上隆の五百羅漢図展」ダブルで行ってきた。

この二つの展覧会の写真撮影許可の違い目の当たりにして考えた
美術展での写真撮影のこと。

「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち展」は撮影禁止。

「村上隆の五百羅漢図展」は写真全くOK。むしろSNSでどんどん流してね！とある。

この二つの展覧会の写真への対応の違いへの疑問というより、改めて、
「何故日本の展覧会や美術展はほとんどが写真禁止なんだろう？」
という疑問がわいてきた。

調べてみると同じような疑問を持っている人、結構いるんですね。
いろんな見解や意見がネット上にあった。

それらを参考に自分の意見をまとめると、

1) 著作権の問題。特に今回のフェルメール・レンブラントの絵画のように、
他の美術館から借りた作品はダメなようだ。

2) 立ち止まって撮影すると、混雑を引き起こすから・・・

立ち止まることすら許されない印象派展やモネ展など日本で人気の展覧会の場合は
この理由なのかな？

3) フラッシュが作品を傷める？ 撮影はOKだけど、フラッシュはNGというのは
海外の美術館でもあるがこの件は、長年の疑問だ。

4) 作品を載せたパンフレットが売れなくなるから。

写真撮っても解説はないから、欲しい時は買うけれど。

著作権を理由に挙げられる場合がありますが、

写真を個人で楽しむ分には問題無いのでは？

贋作を作らせないため？

アマチュアの作品の場合は、逆に光栄なことと考えては・・・

5) 長年の慣習だから・・・

と、ここで改めて考えてみて気づいたことが一つ。

「海外では写真OKの美術館が結構ある！」

でも、私は、それら撮ってもいいところでも、悪いことをしているんじゃないかと後ろめたさを感じながらカメラ向けていた。

そんなことで、日本で美術展や展覧会に行っても 「当然、ダメだろう！」

と思いこみ、聞いてみるという行為もせず、写真を撮ろうともしなかったわたし。

会の主催者だけでなく、鑑賞する側も 「写真撮影はいけない。 美術展とはそういうものだ！」

という思い込みもあるのではないかという気がしてきた。

そう思うと、村上隆展は今後の美術展の新しい形だとしみじみ考えさせられた。

『写真撮影OK？ SNS大歓迎どんどん流して・・・』 と書いている。

撮影可のところが増えてきているけれど、

そこまで大々的に公言しているのは少ないのではないか？

わたしは感動のあまり、撮っては見て、見ては撮って、を繰り返した。

そうするうちにカメラの画面を通して見る作品と

裸眼で見る作品の感じ方の違いを楽しめるようになってきた。

自分の眼で見る良さは色彩、作品全体の大きさ、場の空気感とは異なり、

カメラ越しに見るとより作品のディテールに眼がいき、結果深く見る。

「自分が気になったところを撮りたい」 = 「自分がこの作品のどこに惹かれるのか意識する」

なんてことが起こった。

今後このように 『撮影 OK ! SNS で撮った写真をシェアしてね !』
っていう展覧会が増えていくと思う。

そんな中、気になったことが一点。

「カメラのシャッター音。」

会場に、カシャカシャいろいろなところからシャッター音が響く。

このカシャカシャ音は日本特有の仕掛けとか・・・

気になることはなかったが、この人数が増えると気が散る人がでてくるのではないか？

それと三脚使用は観客の邪魔になり論外ですね。

散々取りまくった後、そんなことを思った。

・・・・・・ 簡単にスマホで写真が撮れる時代。

そして SNS がここまで普及してきた昨今。 ・・・・・・